

武甲山 生川ボルダー

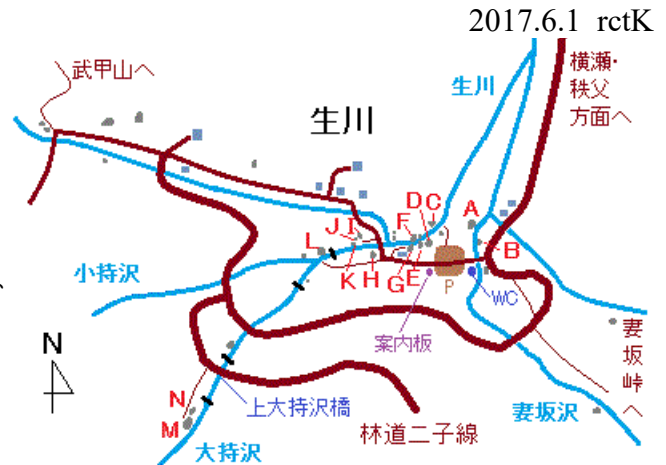
矢花橋ボルダーをトライしていた頃、以前武甲山に登った時に撮った1枚の写真(下記ボルダーのA岩)が気になっていたもので、実家への帰省ついでに確認しに行った。A岩が楽しめそうだと確認後、確か他にも駐車場の下の沢や登山道沿いに幾つかボルダーがあったはずだと思い出し周辺を歩き回ってみると、登山道沿いにはたいして目ぼしいものは見つからなかったが、駐車場近くの沢沿いと、大持沢に幾つか楽しめそうなボルダーを発見することができた。岩質は武甲山と聞くと石灰岩を連想するが、全てがチャートか、それに近そうな堆積岩である。

その後、降雪があったりで行く機会を逃していたが、積雪も消えた頃訪れ、まずはいつものゴミ拾いをし、乾きの良いボルダーから少しずつクリーニングをしながらトライしていった。

ボルダーは、アプローチ別に分けて、妻坂沢、駐車場下、二丁目橋、大持小持出合、上大持沢橋等に分けられる。ほとんどが沢筋や樹林帯の中にあるので、シーズンとしては秋から春の乾燥期が良いが、冬は降雪があると暫くトライできなくなる。また5月に入り気温が上がってくると、結露が酷くなり条件が悪くなる。さらに夏場の増水時は取り付けないボルダーもありそうである。紹介したものの以外にも大小幾つかの未トライのボルダーがあるが、確認した範囲では面白そうなものは残っていない。

アクセスおよびアプローチは、国道299から生川方面に入り、武甲山を見ながら進み、石灰岩砕石加工工場を過ぎて暫く行くと、武甲山の表参道登山口である生川の駐車場に着く。この駐車場は晴れた休日などは直ぐに満杯になるが、駐車場手前の道路横や、林道をさらに進んだ道路脇に何台も置けるので、駐車に困ることはない。またトイレも設置されているが冬期は撤去されるようである。

各ボルダーへは、A~L岩へはこの駐車場に置き。M・N岩へは林道二子線をさらに先に進んだ上大持沢橋のスペースに置く。

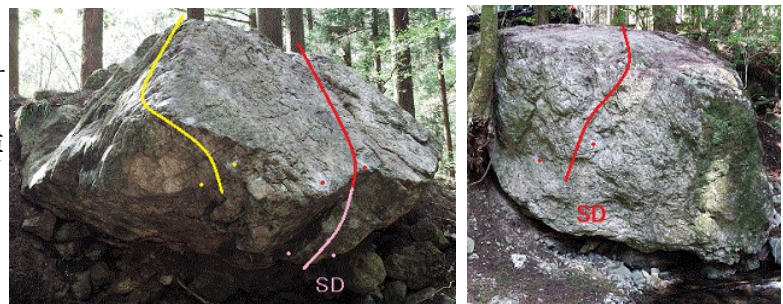


《課題紹介》

●妻坂沢ボルダー(A・B岩)

左:A岩 右:B岩

A岩は、道路から杉林の木間に見える、下がハングした3m程の少し大きめの岩。右ラインのSD(ピンク・石に腰かけスタート、課題名:表参道)課題と黄色ライン(課題名:I Love Bukosan)がお奨め。

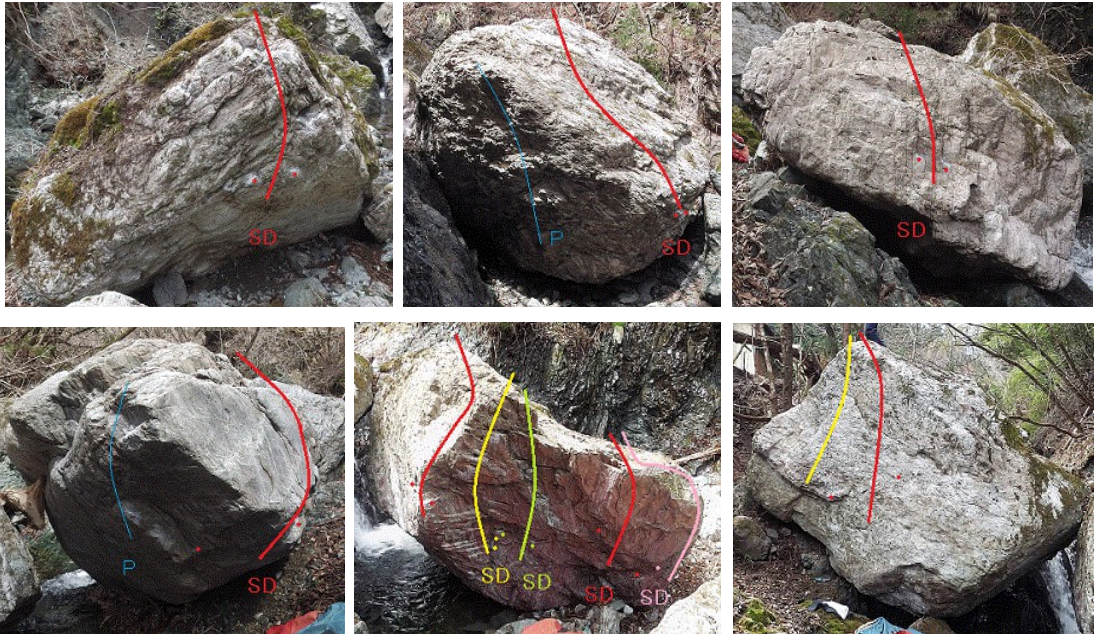


残された未解決課題としては、黄色ラインのLSと左側のハング越えが挙げられる。

B岩は右岸にある小さなボルダーで課題は1本のみ。

● 駐車場下 (C・D・E・F・G 岩)

上左: C 岩
 上中央: D 岩
 上右: E 岩下流側
 下左: E 岩上流側
 下中央: F 岩
 下右: G 岩



アプローチは駐車場から直接沢に下り下から行く方法と生川方面に少し行った廃屋

の先から踏み跡を沢に降り上から行く方法があるが、D 岩の下が水溜りになってしまっている場合は上からの方が良い。

C 岩は駐車場から沢に降り立ち、対岸に渡った所の小さな岩。

D 岩は 3m ほどの岩で下流側に前傾フェイスを持つ。取付きは安定しているが左側が岩の土手状になっているので落ちた時にぶつかる可能性がある。最初行った時は下に水溜りがなかったが、次に行った時は下に水が溜まっていた。反対側を流れる川の増水によって水が出てくるのかもしれない。

課題としては右側のハングと左の前傾フェイスがあるが、前傾フェイスは最初トライしていた SD のスタートホールドが欠けてしまい。別のホールドでトライ中であるが、上部も直上するのは厳しそうである。

E 岩は背の低い小さな岩で上流側の水流際の課題が未解決。

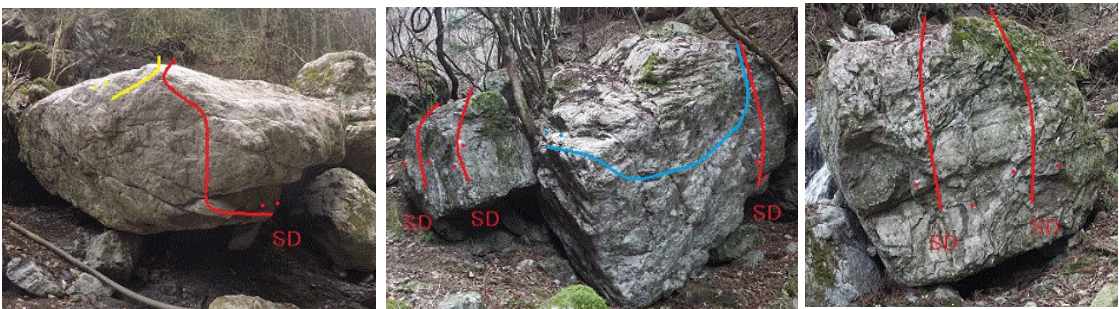
F 岩はドリル穴が目立つ赤いチャートの岩。課題は易しいが、落ちると水の中となるラインもあるので慎重に。

G 岩は菱形のスラブ岩。右の赤ラインは左上のガバを使わない限定ライン。

● 二丁目橋ボルダー (H・I・J・K 岩)

左: H 岩 中央: I 岩(右)と J 岩(左) 右: K 岩

駐車場から武甲山方面に道を行くと、右に曲がった所(二丁目)に小さな橋があり、



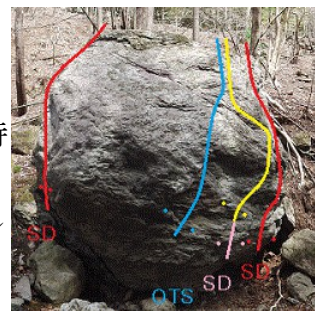
その上流側に幾つかのボルダーが見える。H 岩は右岸から降りるのが早いですが、I~K 岩もトライするなら左岸の踏み跡を行った方が道が良い。

H 岩は大きなテーブル状の岩で背も低いですが SD スタートのラインはお勧め。今後の課題としては下流面の黄ラインの SD トライや赤ラインの最後右抜けなどが考えられる。

I岩は3つ並んだ内の一番右の大きな岩。トラヴァース課題が面白い。
 J岩は小さな岩でちょっと難しいSD課題。
 K岩は川沿いの小さな岩で苔っぽい。

●大持小持沢出合ボルダー(L岩)

アプローチは駐車場から二丁目橋ボルダーの橋手前で真っすぐに荒れた山道に入り100m程行くと、大きな堰堤がある。その堰堤の上の川原に降りると前方にハイボルダーのL岩が見える。そこは丁度大持沢と小持沢の出会いである。



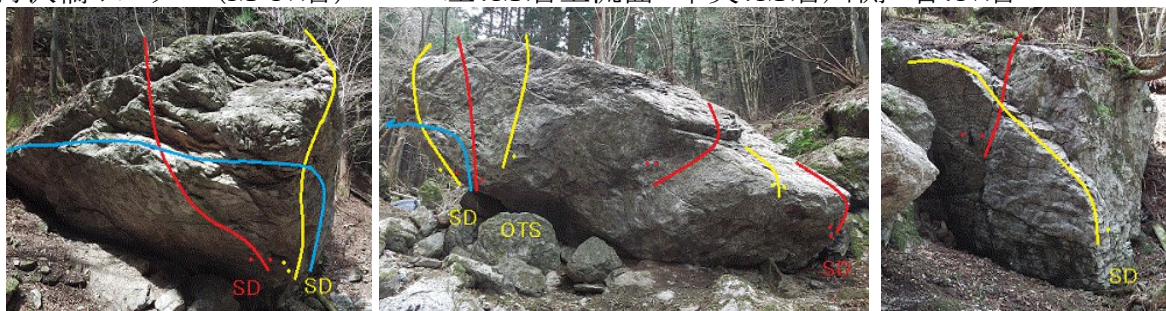
課題は左端と右寄りに設定されており被りはないものの、そこそこの難しさと高さが相まって楽しめる。中央の青ラインがおすすめだが、最初の想定ムーヴと違ってしまったのが自分ではいまいちとなってしまった。

今後の新たな課題としては左側の膨らんだフェイスが考えられるが、力あるボルダラーなら登れるのではないだろうか。

ここは周りの雰囲気も良くおすすめのボルダーである。

●上大持沢橋ボルダー(M・N岩)

左:M岩上流面 中央:M岩川側 右:N岩



橋横の駐車スペースに車を止めると、少し離れた上流側にボルダーが見える。廃道をちょっと歩くと直ぐにボルダーに着くが上流側から降りると広く寛げるスペースがある。

M岩はハイボルダーと言っても良く、川側のランディングは少し悪く、整備をしたが夏の増水で多分また荒れてしまうと思われる。

課題としては上流側のハング周辺が面白く、さほど難しくはないが、ムーヴがボルダチックで楽しめおすすめである。新たな課題として強いて挙げるなら、中央辺りのハングとその右の赤ラインのSDなどが考えられるが、落ちると川に滑り落ちる可能性があるのでお勧めはしない。N岩は下流側の前傾フェイス。赤ラインのSD課題が未解決である。ここは雨後には必ずと言っていいほど浸み出しが見られた。

なお、上大持沢橋の下流堰堤下にも大きなボルダーがある。ハング下が川なので、ボルダーとしては上下流のフェイスが対象だが、ちょっと考えてしまうところである。